

留学生23人 学ぶ決意新た

県立叡啓大（広島市中区）の秋季入学式が27日、同大であった。12カ国からの留学生たち23人が入学し、社会課題の解決に向けた学びを深める決意を新たにした。

新入生を代表し、ボツワナ出身のクベ・ヨラ・カッセルダさん(30)が「ここで学ぶ知識とスキルが未来をつくり、社会の改善に貢献する」とあいさつ。有信睦弘学長は「自分が活躍したい社会のシステムを俯瞰的に見る力を身に付け、リーダーとして先導してほしい」と激励した。

同大は2021年に開学。主に留学生を募る秋季の入学者は新型コロナウイルス禍の影響で少なかったが、今回初めて定員の20人を上回った。ミャン

叡啓大で秋季入学式

新入生を代表してあいさつするカッセルダさん（中央）



マー出身のカインミンミャットさん(24)は「広島で平和について学び、祖国にどう貢献できるか考えたい」と話した。

（岸慶太）